

教育センターだより

香川県教育センター研究発表会を開催します！

日時：平成29年2月17日（金）12：30～16：25（受付12：00～）
会場：香川県教育センター（高松市郷東町587-1）

12:30 12:45	開会式	発表1 全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査の結果分析
12:50 14:35	発表	発表2 協働的な学習におけるICTの活用に関する調査研究
14:50 16:20	講演	発表3 アクティブ・ラーニングによる授業の質的転換に関する調査研究 発表3-1 小学校 発表3-2 中学校 発表3-3 高等学校
16:20 16:25	閉会式	講演 〈演題〉これからの時代に求められる授業づくり —「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて— 講師 白水 始 先生

詳しい日程や申し込み方法等は各学校等に送付している案内状をご覧ください。

講演

講師 しろ はず 白水 始 先生

東京大学 高大接続研究開発センター 教授
東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 機構長
国立教育政策研究所 フェロー

演題 これからの時代に求められる授業づくり —「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて—

アクティブ・ラーニングによる授業づくりについて、ICTの活用や評価の工夫等の観点も踏まえながら講演していただく予定です。



〔プロフィール〕

2000年から中京大学情報科学部助手、情報理工学部准教授を務め、2012年度より国立教育政策研究所総括研究官を経て、2016年度より現職。国立教育政策研究所では、アクティブ・ラーニングなど今後の教育のための授業法、評価、ICT活用、教師支援を一体的に進め、東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構では学習科学を基盤に新しい評価と教育を実践する。キー・コンピテンシーの改訂版を考える「OECD Education 2030」の日本代表を務める。

〔主な著書〕

- ・「協調学習とは」所収『おわりに一解題も兼ねて一』（北大路書房、2016）
- ・「資質・能力 理論編」（東洋館出版社、2016）
- ・「21世紀型スキル」所収『新たな学びと評価は日本で可能か』（北大路書房、2014）
- ・「授業デザインの最前線II」所収『協調学習と授業』（北大路書房、2010）



【発表1】 全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査の結果分析

2つの調査における「教科に関する調査」及び「質問紙調査」の結果を詳細に分析し、そこからうかがえる本県の児童生徒や学校、教職員にとっての成果と課題について報告します。また、学習指導要領の改訂の方針を踏まえた改善の方向性についても提案します。



【発表2】 協働的な学習におけるICTの活用に関する調査研究（第1年次）

「主体的・対話的で深い学び」の実現にICTの活用が大きく貢献するものと期待されています。児童生徒に情報技術を手段として活用できる力を育むためにも、学校においてICTを日常的に活用できるような環境づくりと、ICTを活用した協働的な学習を取り入れた授業実践が求められています。香川県教育センターでは、教科等の枠を超えて共通に行う学習活動としてICTを活用した協働的な学習を重視し、教育課程全体を見渡して育成をめざす資質・能力を確実に育てていくことについて、研究しています。研究発表では、香川県教育センター協力学校の実践事例から具体的な方策を提案します。（今回は第1年次調査報告として、主に調査した内容を報告します。）

【発表内容】

- ・教育の情報化に関する国の動向と県内の状況について
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に貢献するICTの特性や強みについて
- ・小・中・高等学校における学習場面と場面に応じたICTの活用の具体的な実践事例

【平成28年度香川県教育センター協力学校】

- ・香川県立高瀬高等学校
- ・小豆島町立小豆島中学校
- ・善通寺市立竜川小学校

実践の前に

ICTを活用する目的は何か
授業改善の視点になるか



指導の実際は

問題解決の手段となったか
ICTのよさを実感できたか



【発表3】 アクティブ・ラーニングによる授業の質的転換に関する調査研究

平成28年8月、中教審教育課程部会から「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」が公表されました。その中では、「主体的・対話的で深い学び」、すなわち「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善に向けた取組を活性化し、学校教育における児童生徒の学びの質の向上を実現していくことが求められています。

香川県教育センターでは、本県で課題となっている児童生徒の学習意欲を向上させることを目的に、昨年度から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法等について研究しています。研究発表では、香川県教育センター協力学校の実践事例を通して、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、その効果的な方策を提案します。また、本調査研究の研究成果報告書を作成し、各学校に配付します。

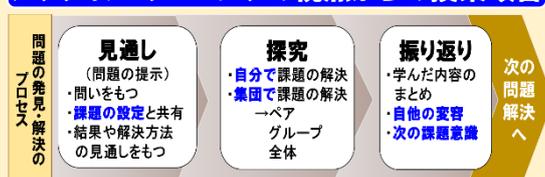
【発表内容】

- ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の方向性
- ・小・中・高等学校における具体的な実践事例

【平成28年度香川県教育センター協力学校】

- ・香川県立高松北高等学校
- ・香川県立丸亀高等学校
- ・高松市立協和中学校
- ・観音寺市立観音寺中学校
- ・高松市立十河小学校
- ・高松市立牟礼小学校
- ・綾川町立綾上小学校

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善



アクティブ・ラーニングリーダー養成研修講座を開催しました！

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくりへの理解と指導方法の工夫改善を一層推進することを目的に、2回にわたる研修を実施しました。両日ともに100名を超える先生方の参加がありました。

第1回〈5月12日実施〉

ねらいと授業づくりの視点について

研修前半では、白水始先生（東京大学 高大接続研究開発センター教授）から「『アクティブ・ラーニング』のねらいと指導法」をテーマで、ご講演いただきました。後半では、校種別に分かれ、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりについて演習を行いました。

【受講者の感想】

- ・アクティブ・ラーニングとは一つの手法を示すのではなく、子どもが主体的に学ぶ様々な方法を取り入れることだと気づいた。（小学校教員）
- ・「まず、自分の学校の実態を踏まえてできるところから」という言葉に安心感を覚えた。生徒の意欲が沸くような課題設定は難しいと思うが、できるところから取り組んでいきたい。（中学校教員）
- ・アクティブ・ラーニングと聞くと、どうしてもその技法部分に注目してしまいがちだが、教材・生徒・手法のそれぞれの関わり方を見直すことだと知った。（高等学校教員）



◆公開講演の様子◆

第2回〈12月6日実施〉

授業実践の交流と各校での推進に向けて

研修前半では、受講者の実践事例をもとに「見通し・課題の探究・振り返り」と「主体的・対話的で深い学び」の視点から交流をしました。後半では、教育センター協力学校の取組事例を紹介した後、アクティブ・ラーニングの推進に向けた各校の具体的な取組やアイデアを話し合いました。

【受講者の感想】

- ・ただ聞くだけでなく、表にまとめていくこと、他のグループからの情報収集といった活動をすることでより分かりやすかった。（小学校教員）
- ・他教科の先生方の取組に触れられたことは新鮮だった。どの先生方も積極的にアクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れており、大変刺激を受けた。（中学校教員）
- ・小・中学校としての視点、教室環境など、高等学校で忘れがちな部分を知ることができた。このような経験をした子どもたちが入学してくるので、こころせねばと思う。（高等学校教員）



◆グループ協議の様子◆

教育ライブラリー 新着図書（アクティブ・ラーニング関連）の紹介

- ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくり ー高校国語の授業改革ー 高木展郎 他（明治書院）
- ・「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは ーアクティブな学びを通してー 高木展郎（東洋館出版社）
- ・いまからはじめるアクティブラーニング導入&実践 BOOK 小林昭文（学陽書房）
- ・アクティブ・ラーニングによるキャリア教育入門 西川純（東洋館出版社）
- ・協調学習とは ー対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業ー 三宅なほみ 他（北大路書房）
- ・教育方法原論 ーアクティブ・ラーニングの実践研究ー 吉田卓司（三学出版）
- ・主体的な〈学び〉の理論と実践 ー「自律」と「自立」を目指す教育ー 小川哲哉（青簡舎）
- ・「学び合う学び」が深まるとき 石井順治（世織書房）
- ・実践！アクティブ・ラーニング研修 村川雅弘（ぎょうせい）
- ・共に学ぶ ーアクティブ・ラーニングの視点を生かした授業ー 津田正之 他（東洋館出版社）
- ・アクティブラーニング実践Ⅱ ーアクティブラーニングとカリキュラム・マネジメントがよくわかるー 下町壽男 他（産業能率大学出版部）
- ・「ダメ事例」から授業が変わる！小学校のアクティブ・ラーニング入門 寺本貴啓 他（文溪堂）
- ・資質・能力を育てるパフォーマンス評価 ーアクティブ・ラーニングをどう充実させるかー 西岡加名恵（明治図書）

【教育ライブラリー開室時間等】

- ・開室時間：月曜日～金曜日9時～17時、土曜日9時～16時（13時～14時は原則として閉室）
- ・貸し出し：1回につき5冊まで 最大15日間
- ・返却方法や開室日の詳細については、香川県教育センターWebサイトをご覧ください。



学校支援アドバイザーを派遣します！

学校支援アドバイザーは、家庭内の問題など、学校だけでは対応が難しい課題の改善に向けて学校を支援する福祉分野の専門家です。派遣をご希望の方は、教育センター教育相談課へご連絡ください。

☎ 087-813-0946

学校支援アドバイザーの紹介

むらかみ あきふみ
村上 昭史
アドバイザー
臨床心理士



県の相談機関で、心理職として不登校や非行、発達、障害の相談と判定に30年間携わりました。子どもの立場・保護者の気持ちに沿ったサポートを提案します。

ふじさわ あかね
藤澤 茜
アドバイザー

社会福祉士
精神保健福祉士
香川SSW協会長



現任SSWです。子どもの生活全体を視野に入れた支援を本人や学校、家庭、関係機関とともに検討しています。

学校支援アドバイザー活用場面例

【こんなケースに】

- 非行など警察との連携が必要な問題行動
- 経済的要因や保護者の病気等による養育問題
- 個別の支援が必要な児童生徒への対応
- 虐待の疑い

【教職員へ】

- スーパービジョン（児童生徒と直接かかわる教員やSSWとの面談、助言、情報提供）
- 校内研修（ケース会議の進め方、記録の取り方、面接の技法等について）
- 関係機関とのネットワーク構築、連携・調整
- 事例検討会への参加、助言

【児童生徒へ】

- 授業参観による個別の支援が必要な児童生徒の見立て
- ワークショップ(構成的グループエンカウンター、アサーショントレーニング等)



教育センター所蔵資料・施設紹介

所蔵資料 ～近代教育制度～

教育センター2階の教育ライブラリー前廊下に、近代教育制度についての資料があります。

1872（明治5）年の学制公布によって、日本の近代教育制度は開始されました。当初は寺子屋や私塾の再編からのスタートでした。当時の人々にとっては、子どもを学校へ通わせることは、社会通念と程遠いものでした。

小学校は、読・書・算を中心とする内容から、次第に教育内容を拡充していき、明治末期にはほぼ現在に近い教育課程が編成されるようになりました。当時、各教科の指導ができる教員養成が急務であり、師範学校や検定試験による教員免許状制度の整備とともに、教員の資質向上が求められました。

この頃は、現在の学習指導要領のような詳細を示したものはなく、学校では教授細案を作成して計画的な教育を行っていました。当時の資料をぜひご覧ください。



石板と石筆

教育ライブラリー

教育センター2階の教育ライブラリーには、14,000冊を超える教育図書があります。その他、教育雑誌を24種類、研究紀要・論文等を約15,000点揃えています。

さらに、アクティブ・ラーニングやICTについての書籍も充実しております。閲覧、貸出をしておりますので、どうぞご利用ください。



香川の教育のひろば

教育センター1階には、戦後初の東京大学総長になった南原繁先生や、女性初の理学博士の保井コノ先生など、香川の偉大な教育者の業績を展示しています。また、明治から昭和にかけての教科書や、浜田知事をはじめ、著名人からのメッセージも展示しています。

研修が終わった後、一度立ち寄ってみてはどうでしょう。

